

(別添 3)

【美浦村】 校務DX計画

【現状】

美浦村では、令和2年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

一方で、次世代の校務システムの導入に向けて、校務系・学習系ネットワークの統合やパブリッククラウド環境での校務の実施等を視野に入れ、次世代の校務DXを実現するシステムの導入の検討を進めている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

学校内の会議で使用する書類の印刷・配布や修正時の手直しによる再印刷など教職員の負担が大きい状況となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者又は県/教育委員会/人事等とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生し、押印待ちによる残業等も発生している状況である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一層

美浦村では、児童生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から一部電話で受け付けており、教職員が別途校務支援システムへ入力し、管理者へ報告している状況であり、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から美浦村では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

会議で用いる資料等はWeb会議ツールなどの資料共有機能を利用することを推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付け、管理者もアプリ上から確認できる仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減を図る。